

巫女姿になった大学生らを前に講義する太田垣  
巨世宮司(右)―尼崎市の尼崎えびす神社で



## 「幸せ運ぶ」マナー学ぶ

新年を控え、尼崎えびす神社（尼崎市神田中通3）で18日、神社のしきたりや縁起物の由来などを学ぶ巫女向けのマナー講座が開かれた。太田垣巨世宮司(46)が、年末年始に巫女としてアルバイトをする大学生ら約15人に講義した。

太田垣宮司は、参加者に白衣と緋袴の身につけ方などを指導。その後、えびす様は通称で「事代主命」が祭神であることなどを説明し、「巫女は人の幸せに直接

巫女向け講座に15人 尼崎えびす神社

関わることでできる仕事。思いを込めて臨んでください」と呼び掛けた。

留学生も巫女に挑戦する。韓国から園田学園女子大に留学するキム・ソヨンさん(21)は「神社は日本ならではの文化で憧れていた。貴重な経験」。武庫川女子大3年の増田桃子さん(21)は「参拝客に良い年になりそうだと思うってもらえるよう心を込めて対応したい」と話した。

【山本愛】